

きつい旅だぜ

作…南参

現代。9月頭の週末。

都市部から車で2時間ほど走らせた山中にある古ぼけた旅館。その二階にある客室。和室。上手側に部屋の出入口があり、下手側には窓があり、外を見渡せる。舞台中央には座卓があり、その周りに座布団が4〜5枚敷かれている。卓上はベットボトル、ビール缶、焼酎の瓶、お菓子の袋やトランプ・携帯ゲームなどで散らかっている。客席側にある床の間には小さなブラウン管テレビが置いてある。(だが、実際の舞台には設置していないので見えない)
なお、トイレは部屋の中には無く、廊下の突き当たりにある共用トイレのみである。

1

夜十一時を過ぎた頃。
畳の上にシンジ(30才)が仰向けに倒れている。
その周りで、シンジを覗き込むように見つめているパパ(60才)とサクヤ(32才)。

パパ シンジくん、シンジくん……シンジくん……シンジくん？

沈黙。

パパ シンジくん。(と呼びかけながら、頬を軽く叩く)

シンジ、無反応。

パパ シンジくん、おい(と、さらに何度か叩く)
いや、あんまり叩かない方がいいんじゃない？
そうか。

パパ ……シンジくんだよな？
え？

パパ シンジくんで合ってるよな？
え、何が？

パパ いや、名前。シンジくんだよな？ 彼の名前。
そう、でしょ。
良かった。

パパ そんなこと
そんなこと言ってる場合じゃないよ。
……。

パパ 申し訳ない。
……いや、聞こえてないよ多分。
(大きな声で) 申し訳ない！
うるさいよ。

サクヤ (サクヤに) 申し訳ない。
いいよ、こっちは。

シンジ、倒れたままうめき声を出す。

シンジ
パパ

ううーう……。
あ、起きちゃった。

サクヤ 自分が起こしたんでしょ。
 パパ あ、そうか。『テヘ♪』みたいなポーズやめて。
 サクヤ 申し訳ない。
 パパ (シンジに) 大丈夫ですか？
 シンジ (か細く) ……はい。
 シンジ ……はい。
 サクヤ 今、向こうの部屋に布団敷いてますから。
 シンジ ……はい。
 パパ ごめんなさい、飲ませ過ぎちゃって。
 シンジ ……すみません……。
 パパ こっちこそ、すみません。
 シンジ すみません……。
 パパ いやいや、

と、ドアを開けてママ(62歳)とマヒル(28才)が部屋に戻ってくる。

パパ あ、起きたよ。
 ママ 本当？
 マヒル 大丈夫？ シンジさん。
 シンジ ううー……………大丈夫です。
 マヒル 大丈夫じゃないね。布団敷いたから、あっち行くよ。立てる？
 シンジ ……んー……………立てない。

マヒル、ため息を吐いたかと思うと、シンジの両足を挿んで両脇に抱えて、そのままズルズルと引つ張って行くとする。

サクヤ え、そのまま引つ張っていくの？
 マヒル 家でもこうしてるから。
 シンジ ちよつと、可哀想でしょう。
 ママ (立ち止まって) 大丈夫だから。
 マヒル 大丈夫です。
 シンジ いや、でもそこドアの前、段差あるし。
 マヒル (軽く見て) これくらいなら大丈夫。ね？
 サクヤ 大丈夫です……。
 パパ いや、本人見えてないし。
 ママ 結構あるよ、段差。
 マヒル パパ、おぶってあげて。
 シンジ あ、うん。
 ママ いいって、いつものことだから。
 マヒル いいから、パパがおぶるから。パパが飲ませすぎたんだし。
 シンジ いいよ。
 ママ 良くないでしょう。見た目もアレだし。
 マヒル ……いや、あの、お母さん……………大丈夫ですから。
 シンジ えー？
 ママ ね？ 本人がいろいろ言ってるし。
 マヒル そういうことなの？
 シンジ でも、酔わせたパパの責任もあるから。
 ママ お酒弱いのにこんなに飲む方が悪いんだよ。ね？
 シンジ はい。
 ママ パパがどどん勸めるのが良くないの。
 マヒル 申し訳ありません。
 シンジ 初対面だから弱いとか知らないでしょ。
 ママ だからこそでしょう。初対面だから気使って勧められるまま飲んじゃったんでしょ？
 シンジ 気なんか使わなくていいんだからね、シンジくん。
 パパ かえって、すみません……………お義父さん。
 シンジ 「パパ」でいいから。
 マヒル いや、
 シンジ いいから。
 パパ ……じゃあ……………パパさん。

きつい旅だぜ

パパ マヒル いや、パパさんって、なんか、ホームステイの人みたいな言い方だなあ(笑)
ママ マヒル は？
パパ マヒル いや、ほら、外国人がホームステイ先でさ、
ママ マヒル ていうかさ、いつまでもこの体勢にしたまま喋ってる方が可哀想じゃない？
ママ マヒル あ、うーん。
ママ マヒル せめて足じゃなくて腕の方持って行ったら？
ママ マヒル 行きます。

ママ マヒル マヒル、シンジを引っ張って部屋を出ていく。
ママ マヒル パパ、手伝って来て。
ママ マヒル はい。

ママ マヒル パパ、追って出ていく。
ママ マヒル やや静寂。

ママ マヒル 今何時？
ママ マヒル (スマホを見て) 十一時過ぎ。
ママ マヒル あ、じゃあ、もう寝ないと。
ママ マヒル 寝る？
ママ マヒル 寝ましょ。
ママ マヒル うん。
ママ マヒル さ、片付けないと。
ママ マヒル ママ、散らかっているものを片付け始める。
ママ マヒル サクヤもそれを見て手伝う。

ママ マヒル パパ戻ってくる。

ママ マヒル (片付けている様子を見て驚いたように) あれ、何やってんの！?
ママ マヒル (動きを止め) ……何って？
ママ マヒル いや、あれ、今、何やってんの？
ママ マヒル ……片付けてるんだけど。
ママ マヒル 片付けてんの！?
ママ マヒル え、何。
ママ マヒル なんて!?
ママ マヒル なんて!!
ママ マヒル まだ片付かなくていいよ!?
ママ マヒル もう寝るよ。
ママ マヒル 寝ないよ!?! 寝るの? いや、寝ないよ! まだ飲むよ!
ママ マヒル サクヤが片付けようとしていたコップを奪い取り、一気飲みするパパ。

ママ マヒル ほら!
ママ マヒル ほら、つて。
ママ マヒル ほら置いて! サクヤも座って!
ママ マヒル (ママを見る)
ママ マヒル もう寝ないと。十一時過ぎてるし。
ママ マヒル なんて? 十一時過ぎてるとなんで寝なきゃいけないの。
ママ マヒル ゴールデンタイムだから。
ママ マヒル ゴールデンタイム?
ママ マヒル 前に教えたでしょ、午後十時から午前二時まではお肌のゴールデンタイムだって。
ママ マヒル だから、その時間にきちんと睡眠をとらないと、
ママ マヒル ……ママ、それは明日もまた来るじゃない。
ママ マヒル は?
ママ マヒル お肌のゴールデンタイムは明日も来るじゃない。
ママ マヒル 明日?

パパ せっかくのこの旅行の時にさ、そんなこと持ち出さなくてもいいじゃない。
 ママ 「そんなこと」？
 パパ 分かってますよ、申し訳ないけど、ママがゴールドタイム大事なのは、重々承知の助でござ
 います、分かっておりますが、が！ が！ ……今日は、今日だけは置いて、ね？
 ママ 「置いていて」、何？
 パパ ……困らん、しようよ。
 ママ 困らん？
 パパ そうだよ、困らんだよ。それこそ、この家族にとつてのゴールドタイムじゃないですか？ 申
 し訳ないですが……。
 サクヤ どうでもいいけど「ゴールドデンタイム」
 パパ サクヤも座ってくれませんか、一旦。一旦、ここに！（座布団を指し示す）
 サクヤ （そこへ渋々座る）……。
 パパ ありがとうございます。
 ママ ……何、困らんって。
 パパ ……んーと……ま、お話ししよう？
 サクヤ・ママ 何を？
 パパ んー……なんか、最近あつた愉快的な出来事とかを話したり、したりする？
 サクヤ 愉快なつて言われても、
 パパ 言われたらパツと出てこないかもしれないが、が！ 飲みながらポチポチとき、ね？
 サクヤ 飲まないから。
 パパ またあ、またまたあ、サクヤまでそんなこと言うー。パパ寂しいぞおさん。
 サクヤ ……今日は飲まないから。
 ママ 今日あつてことは、普段は飲めるんでしょ？
 サクヤ ……。
 ママ ちよつとパパ！

2

リサ（37才）が部屋に入ってくる。

リサ すいませーん……あれ？ マhilちゃんは？
 ママ マhilは今、シンジさん連れて部屋に戻ったけど。
 リサ あー、そうなんですか。
 ママ くん？
 サクヤ どうしました？
 リサ や、（やや声をひそめ）ユウナちゃん、私の部屋でゲームしながら寝ちゃって。
 ママ あら。
 リサ で、そのまま寝かしていいかお母さんに聞こうと思っただけですけど。
 ママ ごめんなさいね、
 リサ いえいえ、いいんです可愛いし。
 ママ ねえ、本当に可愛いわねえ。
 リサ 小さい頃のMhilちゃんそっくり。
 パパ （リサに）おねえちゃん。
 リサ はい？
 パパ おねえちゃんもそこ座って。一緒にお話ししようよ。
 リサ 入っていいんですか？
 パパ もちろん。
 ママ ちよつと。
 リサ あ、やめた方がいいです？
 ママ いや、そうじゃないんだけど、
 パパ いいから座って座って。何飲む？
 リサ じゃあ、ビールで。
 パパ はい。（リサにコップを渡し）
 リサ あ、すいません。

きつい旅だぜ

リサ パパ、嬉しそうにリサにビールを注ぐ。
ママとサクヤは何飲む？

短い沈黙。

パパ 何飲むの？
……いい。
（いい）ちこ？
いい。
ちこ？
いいって！
リサおねえちゃんも飲むんだから、乾杯の準備万端でいるんだから。
……。
ママは。
もう寝ようって。
……一杯だけお願いします。乾杯だけ。
……日本酒。
お、いきなり？
せめて美肌効果を期待して。
なるほど！
へー、そういうの気にするんですね。
しますよ、それは。いつまでも若くいたいもの、だって。桃井ねえさんみたいに。
桃井かおりですか？
ねえさん六十七よ、今年で。
へー。

パパ、コップをママに渡し、日本酒を注ぐ。

ママ あれで私の5つも上なんだから。
ふーん……。
（パパに）そんなにいらぬ、そんなに。
サクヤは？
……そっただけでやっていいから。
いやいや、そういうわけにはいかないよ。
なんで。
みんなで乾杯しないと。
だから、なんで。
なんでって……この家族の久しぶりの再会を祝して、さ。（リサとママに）ねえ？
あ、そうですね。
……。
「祝して」って……。

短い間。

パパ なんだ、ノリが悪いな、おい。昔だったら誕生パーティーの時とか一番サクヤが盛り上がる
タイプだったのに。（ママに）ねえ？
……そっだったかもね。
かもしゃなくて、そっだったよ。あれ、いつの時だったかなー、マヒルの誕生日にさ、パー
スデーキーの火をテンション上がりすぎたサクヤが吹き消しちゃって、マヒルがめっちゃく
ちや泣いちゃって大変な時あったでしょ。
（笑）その時、私もいました。
あれ、そっだったけ？
ちようど遊びに来てて。サクちゃんもオロオロしちゃって、必死にマヒルちゃんの機嫌直そ
うとして変な顔したりしてなんとか笑わせようとしたりして。
あ、そんなことしてた!？
そうそう。
サクヤ、覚えてるか？
さあ……。

きつい旅だぜ

リサ それがもうすっかり大人だもんねー。
まあ……。

リサ 今、いくつだっけ？

サクヤ 32です。
あ、そう。びっくりだねー。小学生の時以来だもんねー。

リサ ……はい。
おねえちゃんのこと覚えてた？

サクヤ や、もちろん。
あ、良かったー。まあ、私もおねえちゃんて年じゃないけどさ。
リサおねえちゃんのはみんな覚えてるよ。

ママ ほんとですか？
ねえ。

リサ うん。
でも本当に、なんかやっぱり雰囲気変わったよね。大人っぽくなって。昔は元気いっぱい
て感じだったけど、なんか落ち着いてて。

サクヤ いや、もういい年だから。

リサ そんなこと言ったら私なんか全然落ち着きないよー、未だに。
(微笑)

サクヤ ……パパも、団らんに入れてくれるか？
乾杯は？

ママ あ、そうだ乾杯だ。乾杯しよう、乾杯。
……しつこいよ、ちよつと。

サクヤ 申し訳ない。けど、一回、乾杯、お願い。(深々と礼をする)

ママ ……(ため息)。
サクヤも、一回、ちやつとやってくれ。ママからもお願いするから。早く寝たいし。
そうだよ、ママの、あの、ゴールドラッシュが来てるんだから。

パパ ゴールドデンタイム。
うん。

リサ ……。
おじさん、あまり無理強いしてもあれだから、

パパ いや、おねえちゃん、ここは申し訳ないけど、ゆずれないとこだから。
……そう、ですか？

リサ だって、今日ね、こうやって集まって、パパはこれを一番の目的として来てるんだから。み
んな大人になって、ようやく、こうして、お酒を飲んで乾杯ってやって、いよいよ、団らん
なんだから。

リサ こだわりが、あるんですね。
申し訳ないけどね。

パパ ー、分かりました。
ありがとう。すみません。

リサ (サクヤに) なんだって。
……はあ。

サクヤ だから、

リサ (コップを持って勢いよくサクヤに近づき) はい、これ。
(イラッとして) いや、そんなグイグイ急に来られてもさ！

パパ ……ああ、申し訳ない。

サクヤ パパ、元いた場所に戻り、コップを置く。
少し間を置いた後、スローモーションで改めてコップを持ち、ゆっくりとサクヤに近
づいていく。

サクヤ いや、そういう物理的なことじゃなくて！
(立ち止まり) 申し訳ない。

サクヤ だから、20年も離れてて、そんな急に一家団らんしようなんて言われてもついてけないっ
て！ 乾杯とかそういう気持ちになんかなれないって！

リサ ……。
沈黙。

ママ ……。
沈黙。

パパ ……。
沈黙。

リサ ……。
沈黙。

きつい旅だぜ

ママ そうね。
パパ ……サクヤ……（目頭をぬぐう）
サクヤ ……ごめんなさい。
パパ いやいや、パパが申し訳なかった。こっちのあればかり、あれして。
サクヤ ……。
ママ パパ、泣かないで下さい。
パパ いや、なんか、悲しいわけじゃなくてさ、反抗してくれて嬉しいなって思っ
て。
サクヤ だって、サクヤの反抗期の時は一緒にいられなかったからさ。ついに、というか、約20年
越しの反抗期だって思ったら……申し訳ない。（後ろを向く）
ママ なんか、複雑な感動してますね。
パパ あの、別に反抗期だから言ってるわけじゃないからね？
サクヤ 分かってる、ごめんなさい。確かに、もう少し時間が必要かもしれない。
ママ ……じゃあ、お開きにして、
パパ いや、お開きにはしないけど。
ママ え？
ママ ……5分、くらいかな。
ママ 5分？
ママ （サクヤに）5分で行けそう？
ママ ……え、何が？
ママ いや、5分でお願ひします。申し訳ないけど。
ママ だから、何を5分で？
ママ ーと……心の準備というか、団らんするためのアップみたいな。
ママ え？
ママ そして、ごめんなさい、なんかすっかり舞い上がって忘れてたけど、マヒル呼んでこない
とダメだった。みんな揃って乾杯しないと意味なかった。
ママ ちよつとパパ、
ママ ごめん、ちよつと呼んでくる。
ママ パパ、
ママ ごめん、すぐ呼んでくる。
ママ おじさん、
ママ あ、ユウナちゃんのことも伝えておきます。
ママ あ、や、それは助かりますけど、
ママ パパ、
ママ サクヤ、
ママ あのさ、
ママ 久々にパパって呼んでくれたな。
ママ いや、
ママ ちよつと縮まった？ 縮まったかな？ 呼んでくる！

ママ パパ、バタバタと部屋を出ていく。

3

一同 ……。
サクヤ ……あんな感じだったっけ？
ママ え？
サクヤ あの、あんな感じの人だっけ。（去った方を指差す）
ママ いや、あんなじゃないと思うよ。
サクヤ ……うん。
ママ お酒入ってるしね。
ママ いや、全然飲んでないよ、まだ。
ママ え、そうなの？ だって、
ママ ビール、一口か二口飲んだくらいで。
ママ それでほぼずつとあのテンションだから。
ママ ……今日は、特別だからね。

きつい旅だぜ

サクヤ ……もう還暦だつて言うのに……。
元気でいいよねー。
サクヤ いや元気とかそういうんじゃないやなくて……。

サクヤ、ふと、ママをじつと見つめる。

……何？

……もしかして整形してる？

整形？

だつて若すぎない？ 若すぎでしょ。

(満更でもない笑顔で) 何、そんなこと言つて。
だつて六二でしょ？

うん、そう。

あっち(パパ)は六〇才でしょ？ いや、若すぎるつて。

何、お小遣い欲しいの？

そういうんじゃないやなくて。

確かにね、昔と全然変わつて無いよね。

ですよ？

正直、私もこないだ久々に会うつてなつた時にどうなつてんだろと思つて、頭もすつかり白くなつてんのかなーとか、ツルツと行つちやつてんのかなーつて思つたら、全然で。

そう、全然変わつてなくて、変わつてなき過ぎて、逆に違和感がすごかつた。

さつきからそれ何、褒めてんの、けなしてんの、どっち？

どっちでも無いけど。

なんですか、その若さの秘密は。

エスケー・トウー。

やつぱり。

今この肌だつたら悪くないと思わない？

桃井ねえさん。

そんなレベルじゃないでしょ。絶対、整形してるつて。

湯上がりたまご肌。

(ママの肌を触つて) うわ、モチモチー。

聞いてよ、人の話。

ピテラの働きを甘くみてはいけません。

へー。

(ママに迫り) いくらかかつたの？

やつてるわけないでしょ。そんなお金無いんだから。

エスケー・トウーだつて結構高いでしょ。

……だから、出来るだけ節約して最低限のものだけ買つて使つて、ゴールデンタイムは絶対寝て、それでなんとか維持してるの。だから本当はもう寝たいんだけど。

えらーい。

おねえちゃんもそろそろ使つた方がいいわよ。

今からでも大丈夫ですか？

大丈夫。

二人して使つてんの？

え？

いや、私はまだ、

いや、じゃなくて。

あ、パパ？。パパは使わないけど。

じゃ、やつぱり整形でしょ。

してないつて。

したでしょ。

ノー。

イエスでしょ。

サクちゃんもしつこいねー。
だつて……

サクヤ

これ。

サクヤ、スマホを操作し、画面に写真を表示する。

きつい旅だぜ

サクヤ、2人にその写真を見せる。
ママ、スマホを手に取り、

ママ ……これ……。
リサ ほんとだ、全然変わってない。
ママ これ、何の時の写真？
サクヤ あの、遊園地行った時の。
ママ あ……あー、あそこだ。これ、あそこ。サクヤはこれだ。
サクヤ いや、それだけだ。
ママ ねー。
サクヤ ほら、全然変わってなさすぎるって。
ママ 私達のことはいいのよ。
サクヤ いや、よくないって。
ママ この写真どうしたの？
サクヤ どうした？ どうしたって、スキヤンして取り込んで、
ママ いや、そうじゃなくて。アルバム持ってたっけ？
サクヤ ……昔、別れる時にさ、これだけ渡してくれたんだよ。
ママ ……そうだ……サクヤと、マヒルに渡したんだっけ……。
サクヤ ……んん。
ママ ……色々、思い出してきた。このとき、遊園地でサクヤ……うんち漏らしたんだよね。
リサ は？
ママ え、そうなんだ。
サクヤ (満面の笑みで) すっごい臭かったの。
ママ ちよつと、
サクヤ 観覧車乗ってて、なーんかモゾモゾしてるなーと思ったら、いきなりブチュージュルジュル
ママ ジュル……っていう、半液体状のものが飛び出てくる音がしてね、
サクヤ ちよつと！
ママ あつという間にえげつない臭いが車内に充満しちゃって、パパが窓開けようとしたんだけど、
リサ すっごい固くって全然開かなくて、
サクヤ うわー。
ママ それ違うって！
サクヤ よりよって、当時日本で2番目に大きい観覧車だったから長くて長くて、マヒルも臭すぎ
ママ てワンワン泣いちやって、サクヤも泣き出して。
サクヤ ちよつと話ストップ！
ママ 少し臭いに慣れたかなーと思ったら、続いて第2波、第3波とまた違った臭さのアレが
サクヤ (絶叫し) ストープ!!

短い静寂。

リサ びっくりしたー。
ママ 何？
サクヤ (ママからスマホを取り戻し) 何じゃないでしょ、やめてよその話。
ママ いいじゃない、昔の子供の時の話なんだから。
サクヤ というか、それ私(俺)じゃないから。
ママ は？
サクヤ 私(俺)じゃないって。
ママ あなたよ？
サクヤ だから違うって。
ママ あなた。
サクヤ 違う。
ママ あ・な・た。
サクヤ ち・が・う。
ママ サ・ク・ヤ。
サクヤ 違う！
ママ じゃあ、誰がやったの。
サクヤ それは……。
ママ 覚えてないってこと無いでしょ、あんなに臭かったのに。
サクヤ マヒルだって。

きつい旅だぜ

ママ マヒル？
サクヤ そう。
ママ マヒルはだって、臭くって泣いてた方だよ？
サクヤ こつちも泣いてたんでしょ!?

ママ あなたはその地獄のような状況に耐えられず泣いてたんだから「ごめんなさい、ブジュー、ごめんなさい、ジュル」って。

サクヤ いやいや、いいじゃない、認めなさい？
サクヤ やだよ！（リサに向かって）おねえちゃんもその観音様みたいな顔で見つめないで下さい！
リサ （穏やかな笑みを浮かべ）観音様？

サクヤ 違いますからね!?

リサ （穏やかに頷く）はい。

（同じ様に）はい。

サクヤ おねえちゃん、サクヤはおねえちゃんのこと大好きだったもんねー。
サクヤ 今度は何の話！

ママ 恥ずかしい話聞かせたくないもんねー。

サクヤ 分かってたんだったら言わないで!?

ママ 大きくなったら結婚するーとかも言ってたもんねー。

サクヤ は？ いや、言っていないって！

リサ ……（ママに）あの、それは違うと思う。

ママ え？

リサ それは……。

ママ ……あ、そうだ。それは違った。

サクヤ ……。漏らしたのも、違うから。

ママ 絶対にマヒルだって言うの？

サクヤ うん。

ママ ……じゃあ、マヒルが来たら聞いてみよ。

サクヤ ……。

ママ ……。

サクヤ、無言で部屋を出ていこうとする。

ママ どこ行くの？

サクヤ ……トイレ。

ママ 行ってらっしゃい……。

リサ 行ってらっしゃーい。

サクヤ、部屋を出ていく。

リサ 今どき共用トイレってなかなか無いですよね、旅館でねえ。まだ男女別だからマシだけど。

ママ そうですねー。

リサ ご飯は割と美味しかったけどね

ママ 温泉も良かったですよ。施設はもう古いけどね。

リサ そうね……テレビもまだブラウン管だし。

ママ ね。これでもまだ見れるんですね。

リサ 点ける？

ママ いや、どっちでも。

リサ ……じゃ、いいか。

沈黙。

ママ おねえちゃん……

リサ はい？

ママ 元気でした？

リサ え？ はい。まあ……色々ありましたけど、今はもう。

ママ そう……良かった。

きつい旅だぜ

リサ ……。
ママ ……なんかずつと、ごめんなさいって思ってた。
リサ あ、いいえ……。
ママ パパも、本当申し訳ないって言ってる。もう、口癖みたいになってるけど。
リサ それはもう、散々言われましたし。この旅行の打合せで会った時にも。
ママ あ、そう……。
リサ ファミレスで「止まった時間をまた進めたいんです！ すみません！ 申し訳ないけど、すみません！」って。何回も何回も頭を下げられちゃって。
ママ ……もう、そういうカラダになっちゃって。
リサ 条件反射みたいなの。
ママ うん。こないだも散歩してる犬に吠えられて謝ってたから。
リサ 犬に……。

廊下からドタドタと足音が聞こえてくる。続けてドアが開き、
パパがマヒルの手を強引に引っ張りながら部屋に入ってくる。

マヒル やめて！
マヒル 申し訳ないけど、すみません！
マヒル 離してって！
マヒル 何の話から？
マヒル じゃなくて、腕！
マヒル 腕の話？
マヒル 腕を離してって！
マヒル ごめん、パパ、特に腕の話は無いかもしれない、今、考えてみるけど、
マヒル 私の腕を離して下さいって言ってるの！
マヒル いや、乾杯して下さいよ！
マヒル 分かったから離して！（強引にパパの手を振り切る）
マヒル (安堵して) じゃ、乾杯しよう。
マヒル ……怖いよ、ちよつと……。
マヒル (ニコニコしながら) すみません。何飲む？
マヒル (あきれ気味に) 何でもいいよ……。
マヒル 何か、甘いのがいいよな？ チューハイとかあるけど、
マヒル いや、ウチ甘い好きじゃないから。ハイボールとか無いの？
マヒル ハイボール？ ハイボールは……買ってきてないかな。
マヒル じゃ……ビールでいい。
マヒル (やや驚き) あ、そう……ビール……。
マヒル はい。(マヒルにコップを渡す)
マヒル あ、ありがとうございます。
マヒル はい、(とマヒルにビールを注ぐ)とす。(と)
マヒル いや、おねえちゃん！
マヒル (ビクッとして) はい？
マヒル それ、パパが注ぐから。申し訳ないけど。貸して？
マヒル あ、はい……。(パパにビールを渡す)
マヒル (受け取りながら) ごめんなさい。ありがとうございます。
マヒル パパ、マヒルのコップにビールを注ぐとす。と、その手が止まる。
マヒル ……ん？
マヒル どうしたの？

パパ、ビールを持った腕が小刻みに震えている。

ママ ママ、震えてるけど。
ママ ごめん……ごめん……。
ママ え、どうしたの？
ママ 大丈夫？
ママ (震えながら苦しそうに) 大丈夫……ごめんなさい……。
ママ え、何かの発作？
ママ いや、知らないけど、

きつい旅だぜ

パパ ごめん！（ビールを置いて目頭を抑える）

沈黙。

マヒル え、何……？

パパ マヒルは……昔は甘いのしか飲めなくてな。麦茶ですら飲まなくて。（ママに）ね？

ママ ママ……そういう時もありましたけどね。

パパ 麦茶出しても「ジュージュしか飲まない！」って怒って、ダダこねて……そんなマヒルが「甘いお酒はやだからビール」……って……。

ママ もう「ジュージュ」じゃ無いんだな、マヒルは……。

マヒル この歳で「ジュージュ」とか言ったら殴られるでしょ。

パパ 殴られはしないけど。

ママ そうか……。

マヒル え……何なの？

ママ 泣いてるの。

マヒル 何で？ 残念なの？

ママ 違います、違いますよ……成長したんだなって思って、嬉しいんですよ……嬉し涙ですよ……。

マヒル ……もういいから、早く乾杯しようよ。注いでよ。
（涙声で）申し訳ない……。

パパ、腕をプルプルさせながらビールを注ぐ。

マヒル 「ジュージュ」じゃ無いんだな……。

ママ 何回言うの。

パパ 申し訳ない……。

リサ あ、そういえばユウナちゃん、

マヒル あ、そうだ。ごめんなさい。

リサ いやいや、寝かせてて大丈夫？

マヒル 連れてきます。

リサ いいよ、寝かしてといて。

マヒル いやでも、

リサ 私の部屋一人だから広いし。

マヒル ひどいんですよ、寝相が。

リサ 大丈夫。

マヒル 部屋ゴロンゴロン行きますよ？

リサ マヒルちゃんもそうだったよ。

マヒル え？

リサ 小さい頃。

マヒル あ、そうだったんですか？

ママ そうね。特にマヒルはすごかった、寝相。よくベッドから落ちてた。

マヒル （苦笑し）あ、そう。

ママ 今？

マヒル 今？

ママ ベッドから落ちる？

マヒル いや、落ちないけど流石に。

ママ （感慨深く）そうか……ベッドから落ちなくなったか……。

マヒル ウチ、もう28だからね？

ママ そうだな……（また目頭を抑える）ママ……

ママ はい？

ママ テイツシュ……。

ママ （ティツシュをパパに渡す）はい。

パパ、むせび泣きながら鼻をかむ。

マヒル いいから早く乾杯して。

ママ そうだ、乾杯しよう。すみません、もう一度みんなコップ持ちまして、

ママ いいの？

きつい旅だぜ

パ マ サクヤいないけど。
マ ……………あ、本当だ。あれ、どこ行ったの？
パ トイレに。
リ あ。大？ 小？
リ 知らないです。
パ あ、そう。じゃ、待ちましようか。全員揃わないと、意味ないから。
マ (ため息) ……。
マ (小声で) 申し訳ない。
マ あ、そうだ。
マ ？
マ (リサを見て) さっきの話。
リ ……あ、さっきの。
マ ……ん？
マ マヒル、昔一緒に遊園地行ったの覚えてる？
マ 遊園地？
マ そう。
マ ……えーと、おっきな観覧車あるところ？
マ そうそう！
マ あー、なんとなく。
マ それに乗った時のこと覚えてる？
マ 乗ったの？
マ 覚えてる。
マ パ、覚えてる？
マ アレだろ？ 日本一大きい観覧車の。
マ 二番目。日本一じゃなくて二番目に大きい観覧車。
マ それに乗ったらウンチ漏らした事件だろ？ 私が必死に窓開けようとして、
マ そうそう！
マ ……あー、なんか覚えてる。思い出した。
マ なんか、さっきその話になって、誰がウンチ漏らしたかって話になって、
マ 何それ。
マ ママがサクヤが漏らしちゃったって話したら、サクヤはマヒルが漏らしたって言い張って、
マ えー(笑)
マ それで、マヒルちゃんが来たら聞いてみようって。
マ 覚えてる？
マ んー…………。
マ ママ、いいじゃない、そんなの。誰が漏らしたとか。
マ でも、だって、
マ そんな大昔の話。二人が漏らしたってことでいいじゃない。
マ いや、良くないでしょ！
マ それはひどい。
マ それは違うと思います。
マ だって、せつかくこれから困らんするって時にき、わざわざそんな火種を持ち込まなくても、
マ 二人にしようっていうのも十分火種でしょう？
マ じゃ、パパが漏らしたってことでいいから。
マ いやいや。
マ パパが全部アレだったんだから、申し訳ない。
マ 勝手に話進められても。
マ そうしましよう？
マ やだ。
マ やだも何も、申し訳ないけど、アレだから。ね。
マ 何を喋ってるの？
マ いやいや。いやいや。すみません。
マ 何に謝ったの。
マ ごめんなさい。
マ だから、
マ いや、ウチじゃないと思う。
マ え？
マ 何となく思い出してきたけど、ウチではない。

きつい旅だぜ

ママ 聞いてたの？
サクヤ そこで、アサヒ兄ちゃんに会った。
マhil え？
ママ トイレ出たところで……。
サクヤ え、どういうこと？
ママ 本当に？
マhil 似てる人とかじゃなくて？
サクヤ いや……本人だと思う。
ママ 喋ったの？
サクヤ 喋ってはないけど、目が合つて……向こうも、一瞬「あ」つて顔になって……。それで……
マhil こっちも反応出来ないでいたら、すつといなくなつて……。
……え、それだけ？
……うん。
サクヤ じゃあ、やっぱり似た人だったんじゃないの？
マhil いや、でも、
ママ パパ、
……はい。
ママ アサヒも呼んだの？
……いや。
ママ 本当に？
……はい。
ママ おねえちゃん、
サクヤ 呼んではいらないです……けど、
サクヤ 働いてるの？
……。
マhil 働いてる？
……従業員みたいな格好してたから。
……そうなの？
……はい。

間。

ママ みんな知ってたの？
リサ 私とおじさんだけです。多分。
ママ 申し訳ないけど、そうです。
ママ ……なんで？
ママ アサヒは、5年くらい前からここで働いてるらしい。このオーナーさんも、アサヒがどう
いう事件を起こしたのか分かつて、それでも更生したということを信じて、支援したいと
いうことで雇ってくれてるそうだよ。
サクヤ いや、そういうことを聞きたいんじゃないやなくて、
どういうつもりなの？
……。
ママ どういうつもりでここに集めたの？
……さつきから言ってる通り……「団らん」しようと思って。
ママ 団らん……？
ママ 20年ぶりに集まつて、この家族で、もう一度「団らん」したかったんだよ。
……何を言ってるの？
ママ みんな全員揃つて、乾杯して、お酒を飲んで、昔の思い出をみんな話して、
事件のことも？
……。
ママ ちよつと待つて。アサヒは私達が来ること知ってるの？
……知らないはずですよ。でも、さつきサクちゃんとお出くわしたんだったら、もう、分かつて
るかも。

沈黙。

パパ 何も言わずにみんなを集めてしまつて、申し訳ありませんでした。でも、思い切つて、こう

きつい旅だぜ

シンジ
パパ
シンジ
ママ
シンジ
ママ
マヒル
シンジ
マヒル
シンジ
マヒル
サクヤ
シンジ

え？
寝てきていいよ、自分の部屋に戻って。
あー、いやもう、大丈夫なんで。パパさんにお付き合いしますから。僕も今日、マヒルさん
のご家族によくお会いできるということ楽しんでたんで。
あー、そう……それは……申し訳ないねえ、なんだか……はははは……。 (苦笑)
シンジさん、
はい。
本当に、そういう気は使わなくていいですから。
いや、
さつきまで立てなかったわけだし。お酒弱いんでしよう。
弱い。
大丈夫。一回ピーク越えたら、あとは長く行けるから。
いいからやめなつて。
んー、でも折角だしさあ、
だから……んー、もう！
シンジさん、本当に、無理しなくていいですから。
いや、無理とかは……。

間。

シンジ
パパ
シンジ
ママ
シンジ
ママ
マヒル
シンジ
マヒル
シンジ
マヒル
サクヤ
シンジ
シンジ

あれ、もしかして……僕、邪魔ですか？
いや、邪魔とかじゃないんだけど、
あ、じゃあ良かったです。
……。邪魔では無いんだけど、ごめんなさい、ちょっと今、大事な話をしてたところなんで、
シンイチくんは
シンジです。
シンジくんは、ちょっとアレだから、寝てもらって
ここにいたらダメですか？
え？ え？
あの、ごめんなさい、もしかして、もしかしてなんでですけど、変な気を使ってるのかだった
らやめて欲しいなと思つて。
いや、そういうんじゃないけど、
アサヒさんのことだったら僕も聞いてますし。
……。あ……。

シンジ
ママ
マヒル
シンジ
マヒル
シンジ
マヒル
シンジ
ママ
シンジ
ママ
マヒル
シンジ
マヒル
シンジ
ママ
シンジ
ママ

あのさ……シンジさ、そんな頑張らなくていいから。
でも、ちゃんと理解しておきたいって言うか。
理解って、何を？
だから……何ていうんだろう……心構えじゃないけど。
心構え？
あのー、なんて言えばいいんだろう。
「人殺しの家族はどうあるべきか」ってことですか？
……。えーと、
（やや怒りながら）そんなの分かんないですよ、私達も。
……。
サクヤ、
だって、なりたくてなったんじゃないんですよ？ 心構えも何も……。
……。
（シンジに）すみません。
僕こそ……無神経なこと言ってしまったてすみません。
……。
じゃあ、申し訳ないけど、向こうの部屋に戻ってもらつていいですか？
えーと、
本当に申し訳ないですけど、私は今、家族揃つての乾杯からの団らんをとかくしたいんで
すよ、ごめんなさい。だから、シンイチくん、あるいはシンジくんには一旦この部屋を出て
ってもらいたいんですよ、本当にすみません。

きつい旅だぜ

シンジ
パパ

あの、
本当はこんなおこがましいこと言えるアレじゃないんですけど、実はそう思っただけで、ガンガン飲ませて潰れてもらおうとしたんですよ、さつきね。いや、これはあくまで私一人で考えたことなんで、責めるなら私を責めて頂きたいです、すみませんけど、本当にすみません。ちよつと待って下さい。パパさん、でも、僕も家族の一員としてですね、いや、だからそれはちよつと、やっぱりアレなんです。

シンジ
パパ
シンジ
シンジ

それはどうも、私的には家族の定義が違うと言いますか。
定義？
元の、あの時の5人家族にもう一度戻って、そこをスタートラインとしてまた再出発したいなあっていう、アレなので。私と、ママと、サクヤとマヒルと……アサヒと。

間。

ママ
パパ

つまり……そのためにここに来たってこと。
はい。黙っててごめんなさい……あと、ゴールドン・ショータイムなのに寝かさないうすみません。

ママ
マヒル
パパ

(何か言いかけるが、諦めてため息をつく)……。
どういうこと？ 再出発って。また一緒に暮らそうってこと？
ま、いきなりそれは色々と厳しいだろうから、まずは、気持ちを一つにすると言うか。家族の絆を確かめてからと思っただけ、
何言ってるの？

サクヤ
パパ

え？
やり直せるわけじゃないじゃん。

サクヤ
パパ
サクヤ

……サクヤ、
誰がそんなこと許してくれるわけ？
許すとかどうとかって言うよりもさ、

サクヤ
サクヤ

今日だって、ここに来ることだって相当悩んだんだよ。もし、万が一、こうして集まるのがバレたらどうしようって。

パパ
サクヤ
ママ

うん、それは分かるよ、申し訳ないけど、
本当に分かってんの？ 忘れてない？ うちら殺人犯の家族なんだよ！?
……サクヤ、声大きいよ。
……。(少し声を低め)ましてや、その殺人犯と会って乾杯しようだなんて……。

サクヤ
パパ
サクヤ
ママ

……殺人犯なんて言い方しないでくれよ。
じゃあ、何なの。
お兄ちゃんだよ、お前の。

サクヤ
マヒル
ママ

……だから、すぐ分かったんだよ。二十年も会ってなかったのに。
……。
……。

ママ
マヒル
シンジ

……。
……。

シンジ
パパ
シンジ

あの……。
ん？
あの……ちよつとよく分かってないんですけど、聞いていいですか？ アサヒさんがここに

シンジ
マヒル
シンジ

来るんですか？
いや、まだ分からないけど。
分からない？

シンジ
マヒル
シンジ

呼びたいとは思ってるけど、
呼びたい？
あ、そうか、さつき聞いてなかったんだっけ……。
何が？

マヒル
シンジ
マヒル

……は？
……は？
……は？
……は？
……は？

マヒル
シンジ
マヒル

ウチもさつき聞かされたんだけど。
……え、ここに来るの？
いや、それは、

マヒル
シンジ
マヒル

呼びたいとは思ってます。
……ここに居るんですか？

パパ
シンジ
……なんで？
えーと、だから、このオーナーさんがですね、
ユウナも連れてきてるんですよ？
え？

パパ
シンジ
大丈夫なんですか？
大丈夫って……何がですか？
何がって……いや、だって……女の子殺してるんですよ？
いやいや、申し訳ないけど、女の子って言っても年齢も全然違うし、
年齢？

パパ
シンジ
あの、被害者は同級生でしたから、当時15才の子で、
そういうことじゃないと思うんですよ。え、どういうつもりなんですか？
どういう……？

シンジ
パパ
本当に反省されてるんですか？
すみません、よく……。
だって、
シンジくん、ちょっと落ち着いて。
落ち着いてって、お前……っていうか、ユウナは？ どこ？

マヒル
シンジ
あ、ユウナは
あの、ごめんなさい、さっき私の部屋で遊んでたらそのまま寝ちゃって、
は!! 寝ちゃってって。え、今、そっちの部屋で一人にしてるってことですか？

リサ
シンジ
……あ、はい。
カギは!!
かけてます。

リサ
シンジ
貸してください。
あ、

リサ
シンジ
カギ、早く。
はい……。

リサ、部屋のカギをシンジに渡す。

シンジ
見てきます。

シンジ、足早に部屋を去る。

沈黙が流れた後、マヒルが立ち上がり、部屋のドアのカギを掛ける。

マヒル
………ごめんなさい。

ママ
マヒル
……マヒルは悪くないから。

パパ
……。
申し訳ない……!

5

突如として窓の外が明るくなってくる。

それとともに、大勢の人の声がガヤガヤと聞こえてくる。

20年前の記憶のフラッシュバックである。

サクヤが恐る恐る窓の方に近寄り、外を見る。

サクヤ
なんか、いっぱい人が来てる。

ママがサクヤを窓の方から引き剥がし、カーテンを急いで締め切る。

マヒル
どうしたの？

ママ ……
リサ 今、ちょっと外行けないから、プレステで遊んでようか。

リサ、テレビを点ける。
と、テレビからワイドショーのリポーターらしき音声が流れてくる。

リポーター 先程より、多くの報道陣が詰めかけておりますが、カーテンは締め切られ、中の様子をうかがい知ることはできません。何度かチャイムを鳴らしておりますが、反応はありません。付近の住民の方のお話によりまずと「仲のいいご家族で、たまにこちらの

パパ、テレビを消す。が、なぜか再び点いてしまう。

リポーター たまにこちらの親戚のお宅へも遊びに来ていたようだ。何か問題があったようには

パパ、再びテレビを消すが、またすぐに点く。その後も、何度かスイッチを押すがテレビは消えない。

リポーター 何か問題があったようには見受けられなかった。今回のような残酷な事件を起こすようにはとても見えなかった」とのことです。果たして、容疑者の少年のご家族は今、一体どのような面持ちでこの時を過ごしているのでしょうか？

外からの騒ぎ声がどんどんと大きくなり、やがて部屋を包み込んでいく。
恐怖を感じた家族たちは身を寄せ合うように固まる。
そんな家族の姿がテレビの明かりに照らされて残酷に浮かび上がる。

6

ドアのノックの音が聞こえ、フラッシュバックから現実へと戻る。

やや静寂の後、再びドアのノック。

家族たち、出るのを躊躇するが、パパが意を決したようにドアの方へ。
カギを開け、ドアを開くと、そこには旅館のオーナーが立っている。

オーナー すみません。夜分遅くに。
パパ はい……。
オーナー 私、この旅館のオーナーの黒部と申します。
パパ あ……ああ、はじめまして。息子が……お世話になっております。
オーナー あー……お父様ですか？ ずいぶんお若く見えますけど。
パパ ああ、いえ。すみません。
オーナー でも、やはり似てらっしゃいますね。特に〇〇のあたりとかそっくりですね。
パパ そうですか……何かご迷惑おかけしたりしてませんか？
オーナー あー、うちに入ったばかりの時は……（※と、アサヒの失敗エピソードなどを話し始める）
パパ はあ……ところで、あの一、
オーナー あ、すみません。ちよつと今、よろしいですか？
パパ あ、はい。
オーナー あの、あちらの方に。
パパ はい……。

パパ、廊下へと出ていく。ドアが閉まる。

マヒル ……どうしたんだろ？
ママ ……ねえ、サクヤ。
サクヤ さん？
ママ さつき、アサヒどんな様子だった？ 元気そうだった？
サクヤ ……さあ。喋ってないし。

ママ そうか……。リサおねえちゃんは会ってないの？
リサ 会ってません。
ママ そう。
リサ そう言えば、どうやってここで働いてるって分かったの？
マヒル ーと、少年院を出た人を支援してる団体があって、そこから色々当たってみたら、運良く見つかった。

ママ そうなんだ。
ママ それも、パパに頼まれたんでしょ？
リサ ええ、まあ。
ママ ごめんなさいね。
リサ いえ。私もアサヒに会いたかったし。
ママ ……ありがとう。

リサ いえ……。
サクヤ ていうか、会うつもりなの？ 会いたい、本当に？
ママ それ、どういう意味……？
サクヤ 許せる？
ママ 何を？

サクヤ ……こうなったことを。この二十年を。
ママ ……。
サクヤ 必死に生きてきたよ。小学生でいきなり全然知らない土地の、全然知らない学校に行かされた。そこで変な噂も立って。同級生に「前の学校で先生を殴り殺したんだって？」って聞かれた。「そんなことしてない」って……言いたかった。「殺されたのは先生じゃないし、殴ったんじゃないし、そもそも私(俺)じゃないし」って……言いたかった、けど、声が出なかった。それからいじめられても、無視されても何も言い返せなかった。
……。

ママ ……それでも、なんとか、必死に生きてきて……今さら許せないよ。あいつを。
サクヤ、もし、次にあの顔を見たら
ママ 許す許さないは私達が決めることじゃないの。
サクヤ ……え？
ママ それは、被害者側だけが決められることなの。
ママ ある意味こっちだって被害者だよ。
ママ 家族なの。私達は。私はアサヒの母親。あなたは兄弟。
……そんなの、

ママ あの子を産んで育てた私には責任があるの。被害者の方々に死ぬまでお詫びしていく責任が……。
サクヤ 兄弟であるあなた達には、なんの責任も無いけど。
ママ いや……だったら、
ママ んなこと言ってもしょうがないじゃん。
……は？
ママ しょうがないじゃん。
ママ 「しょうがないじゃん」って何？

ママ だって、そんな昔のことグチグチ言っって何か解決する？
ママ 何言っってんの？
ママ 二十年前にお兄ちゃんが人を殺しました。そのせいで家族バラバラになりました。で、ここまですんごい苦勞して頑張っって生きてきました。分かるよ。ウチもそうだもん。ママも、パパも、リサおねえちゃんも、みんなそうじゃん。
ママ だから、自分ひとりだけ不幸ゾラすんなってこと？
ママ そういうこと。

ママ ……マヒルは大して覚えてないよね？
ママ 何が。
ママ どんだけきつい目にあっただか。マスコミにつきまとわれたりした事とか。
ママ ……そこまで詳しいことは覚えてないけど。
ママ だからそんなこと言えるんだよ。
リサ サクちゃん。
サクヤ 分からないんだよ。
リサ やめようよ、
マヒル ウチはウンチ漏らしてないから。
サクヤ ……何？

きつい旅だぜ

観覧車の中でウンチ漏らしたの、サクヤでしょ。

またその話!?

そうでしょ!?

……今そんな話してない。

私はしたいの、ウンチの話を。

何それ。

私じゃないの。

やっぱりサクヤでしょ?

乗っかってこないで。

私はちゃんと覚えてるから。

知らないよ!

人になすりつけないで。

何を。

ウンチを。

うるさい。

うるさくない。

ふざけ

ふざけてない。全然ふざけてない。

二人とも、

きつい人生だと思っよ。めちゃくちゃハードモードだと思っよ。でも、人に責任なすりつけるのは違わない?

……。

ウチも不安なこといっぱいあるよ。ウチも、カツとなった時に旦那殺したりしちゃうんじゃないかとか。もし、ウチの子が、いつかアサヒ兄ちゃんみたいな事件起こしたらどうしようとか。子供つくる時からすごい怖かった。

マヒル……だけど血の繋がった兄弟だからって

分かってるよ、頭では。そんなわけ無いって。でも怖いって思っっちゃうんだよ……。

……。

リサ、マヒルの頭をそっと撫でてやる。

(リサに頭を預け) ……ありがとう。

んーん。

ありがとう……。

今日さ、久しぶりにマヒルちゃんに会えて、嬉しかった。

……。

立派なお母さんになってて。

……全然立派じゃない。

立派だよ。シンジさんも優しそう人だし。

(頭を上げて) ……。

おねえちゃんは、嫁に行きそびれちゃってるからさ。

まだ大丈夫だよ。

えー、大丈夫かなー?

まだまだ大丈夫だよ、むしろなんで今まで独身なのか不思議なんだけど。

なんでって(苦笑)

もしかしてさ、

ん?

それもアサヒ兄ちゃんのせいなんじゃないの?

え?

サクヤ、やめて。

だとしたら、おねえちゃんも被害者だよ。

間。

……そうなの?

……どうかな……。

おねえちゃん、

十五年くらい前にね、一回結婚しようとしたことがあったんだけど……でも、ダメになっ

きつい旅だぜ

マヒル
リサ
マヒル
リサ

ちやったの。アサヒのことを話したら、相手が不安がっちゃって。そこまで背負いきれないって。
そんな……おねえちゃん、無関係じゃん……。
無関係ではないけど、従姉弟だし……でも、悔しかった。
……。
「誰と結婚するの？」って、「私とするんじゃないの？」って……。

沈黙。

リサ
サクヤ
リサ
サクヤ
リサ
サクヤ
リサ
サクヤ
マヒル

まあ、その程度の男だったからさ。良かったんだよ結果的に、別れて。
良くないよ。良くないでしょう。
恨んではないからね。アサヒのこと。
……本当に？
……うん。
でも……でも、そこまでしてかばう価値あるの？ ねえ？
……。
十五才の女の子をめた刺しにして、それで今は旅館でのうのと働いてる。そんな男と再会して、喜べると思う？
……。

沈黙。

ママ
サクヤ
ママ

……分からない。
……。
……分からないけど……アサヒの家族は私達しか居ないし、アサヒが居ない家族なんて想像
(できない)

サクヤ
ママ
サクヤ
ママ
サクヤ
ママ

死んだと思えばいい。
死んでないもの。
だから、死んだと思っただけ、
本当に死んでたら諦めもつくけど。でも、死んでないから。
……。

……さっきの写真の話だけど、

サクヤ

写真？

ママ

遊園地の、

サクヤ

またその話持ち出すの？

ママ

いや、そうじゃなくて、私達の顔の話。

マヒル

顔？

ママ

あのね、本当に言っても信じてもらえないだろうけど、整形も何もしてないの。

サクヤ

いや、いいよ、今その話は。

ママ

多分、呪いみたいなものだと思うの。

サクヤ

……え？

リサ

何？

マスコミやなんかから身を隠すためにあなた達と別れて、パパとも籍を抜いて、それから数年して気づいたの。私達、顔が変わってないって……。加害者の親という立場だから、例え面白いことがあっても不謹慎だから笑っちゃいけない。楽しいことを考えてもいけない。かといって不幸ぶってもいけない。本当に不幸なのは将来を奪われた被害者で、死ぬほど辛く苦しんでるのはその遺族の方々なんだから。だから、出来るだけ感情の幅を小さくして小さくして生きて行こうと言いついて聞かせてきたの……そうしたらね、時が止まったの。この二十年の間、私達だけが。

間。

マヒル
ママ
リサ
マヒル
サクヤ
ママ
サクヤ

……自分で自分に呪いをかけた……？
かも、しれない。
おじさんが言ってた「止まった時間をもう一度進めたい」って……。
じゃあ……その呪いを解くため……ここにみんな集められたってこと？
そんな話……そんな突拍子もない話、嘘に決まってる。
……。
「呪い」なんて信じるわけないから。そんな嘘に納得して、「そういうことなら、もう一度家

ママ 族やり直ししよう」ってなるって思った……？
サクヤ じゃあ、サクヤはなんで今日ここに来てくれたの？
ママ ……なんで……
サクヤ 本当は来たくなかった？
ママ ……
サクヤ 会いたくなかった？
ママ ……
サクヤ 顔も見たくなかった？
ママ ……

沈黙。

7

ドアが開き、パパが静かに戻ってくる。

パパ ……ただいま。
ママ ……おかえりなさい。

パパ、何も言わずその場に立ちすくむ。

リサ どうしたんですか？
パパ ……アサヒに会った。

沈黙。

……アサヒは、ここに、来ません。

沈黙。

……みんなに合わず、顔がないし……これ以上、迷惑を、かけたくない、そうです。

沈黙。

写真を、一枚だけ撮って、きました。

パパ、スマホを取り出し、アサヒの写真をみんなに向ける。
一同、写真を見つめる。

ママ ……パパそっくり。
マヒル (思わず少し笑い) ホントだ。
リサ ……それで分かったんだ。
マヒル え？
リサ サクちゃんが見た時に。
マヒル ……あ、そういう(ことか)。
ママ ……。(頷く)
パパ ……どこからどう見ても、親子だね。
マヒル ……
リサ 耳の形とか……唇の厚さとか……。
マヒル 肩のラインまで、そっくり……そして、いい年になったね。お互い様だけど。
マヒル ……覚えてくれるかな……ウチのこと。
ママ 覚えてるよ。いっぱい遊んでくれたもん。
マヒル ……そうなの？
ママ ママが買い物行ったり、ごはん作ってる間とか、絵本読んだりしてくれてたよ。
マヒル 幼稚園ぐらいの時？
ママ そうね。

きつい旅だぜ

マヒル サクちゃんは？
ママ サクヤも遊んでくれてたよ、もちろん。ね？
サクヤ ……さあ。
マヒル でも、サクちゃんはかなりいたずらっ子だったからねー。
サクヤ なんかも、よく泣かされた記憶だけある。
マヒル は？
サクヤ ぬいぐるみ取り上げてぶん投げられたりさ、ゲームやってるのにテレビ消されたりさ、
マヒル そんなこと……した？
サクヤ してたんじゃない？
ママ された。
マヒル だつて。
リサ ……あ、そう。
サクヤ ひどいよね、こんな可愛い妹に。謝つてよ。
マヒル (半笑いで) ……すいませんでした。
サクヤ 角度！
マヒル え？
サクヤ もつと頭下げて！
マヒル ……。(怪訝な表情で深々と礼をし) 申し訳ありませんでした。
サクヤ ……顔上げて。
マヒル はい。(顔を上げる)
サクヤ (サクヤの肩に手を置き) 許す！
ママ ……。
リサ マヒルが生まれる前は、アサヒもサクヤと結構ケンカしてたけどね。
ママ そうだったっけ？
リサ (パパに) してたよね？
ママ ……どうだったかな。
パパ ……どうだったかな。
ママ ……爪で引っかきあつたりして。
リサ そんなことしてたの(笑)
ママ いや、覚えてないですけど。
サクヤ ひどかったんだから、二人とも。(パパに) ねえ。
ママ うん……。

パパ、いつの間にかスマホを持った腕を下げていた。

間。

一同、パパの顔をじっと見つめる。

サクヤ ……？
リサ ……。
ママ ……あの、
パパ さて、もう十二時を回りました。日付変わって、今日は、パパの誕生日です。
マヒル ……え、そうなの？ 本当に？
サクヤ 今日？
ママ そう、だっけ……。
パパ (苦笑して) そのためにこの日を選んだのに。(リサに) ねえ？
リサ すいません、私も……。
ママ あれ。
パパ ごめんなさい、私も、もうずっとお祝いして来なかったから。
マヒル あ、そう、だね。ごめんなさい。
ママ いえ、ごめんなさい……。
マヒル あ、じゃ、ケーキあるの？

沈黙。

パパ ……乾杯でいいよ。
マヒル ……あ、うん。
パパ ……じゃあ、みんなコップ持って。

ママ、リサ、マヒルは先程注がれてあるコップをてに持つ。
サクヤはひとまず空のコップを持つ。

パパ
サクヤ
サクヤ
パパ
サクヤ
サクヤ
パパ

サクヤは？
え？

何飲むの？

……何でも。

じゃあ……。

パパ、その場にある一番強そうな酒瓶を持つ。

サクヤ
パパ
サクヤ
サクヤ

(コップを引き) え、いきなり？

いや、何でもって言うから。

……はい。(コップを差し出す)

パパ、サクヤの持つコップを取り上げ、代わりに酒瓶を持たせる。
そして、パパはビールを自分で注ぐ。

サクヤ
パパ
サクヤ
サクヤ

……。

それではみなさん、コップ持ちましたね。

コップじゃないけど。

では……パパの六十一回目の誕生日と、そして……二十年ぶりの再会と……いつか……家族
全員が……笑顔で集まれる日を夢見て……(小さな声で) 乾杯。

一同、恐る恐るコップ等を近づけていく。
音もなく、触れ合う。

と、瞬間、カメラのシャッターを切るような音がして、乾杯の瞬間の姿が舞台上に焼き付き、やがて静かに消える。

終